

授業概要

社会は、さまざまな社会関係が絡み合う複雑な塊である。この社会学Ⅱでは、社会学Ⅰで学んだような個々の社会関係が、相互にどう影響しあって全体社会を構成しているかについて講義する。家族、職場、学校や地域と関わりながら生きる現代人が、そのそれぞれの要求に応えるためにいかに奮闘しているのか、そうした要求に応えるうえでどのような困難があるのかを、具体的な事例を見ながら考える。また、それらの困難が現在、社会的にどう解決されようとしているかについても触れ、現代の日本社会とその中に生きる私たち一人ひとりの可能性について考える。なお、この授業は社会学の応用編と位置付けられるが、社会学Ⅰを受講していなくても十分理解できる内容である。

授業計画

第 1 回	全体社会を見る切り口としての「労働」
第 2 回	日本的組織の特徴と近年の変化
第 3 回	男性の労働とその問題点——働き過ぎ
第 4 回	女性の労働とその問題点——家庭内労働と雇用労働の両立困難
第 5 回	女性の就労支援策とその国際比較
第 6 回	フリーターの労働とその問題点——不安定就労
第 7 回	働きやすい社会へ向けての取り組み
第 8 回	役割演技と自己形成のしくみ
第 9 回	「男性・女性としての私」の形成
第 10 回	多元的価値を育む現代社会
第 11 回	ラベリングとネガティブな役割の引き受け
第 12 回	「非行者としての私」の形成
第 13 回	「障害者としての私」の形成
第 14 回	なぜ今「バリアフリー社会」か
第 15 回	全体のまとめ
第 16 回	筆記試験

到達目標

現代日本社会の諸現象や諸問題について、基本的な知識を持ち、それについて自分なりに整理し、意見を述べられるだけの考察力を身につけること。

履修上の注意

この授業はテキストを用いないので、毎回の授業に出ることは必須です。積極的に出席し、学んだことをもとに社会現象について考えていこうとする、意欲的な態度での受講を期待します。

予習・復習

参考文献リストを使った自主的学習のほかに、授業で扱ったテーマに関連した社会観察や考察の課題を出す。その結果は、授業内の小レポート等で報告してもらうことがある。

評価方法

主に学期末試験によって評価する（80%）。数回の授業内小レポート・授業外レポートも考慮する（20%）。

テキスト

とくに定めない。授業では主にプリント資料を使用する。